

発見！平安京の九条大路と羅城

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 イ ウンジン
李 銀眞

はじめに

I. 羅城とは？

羅郭・外郭ともいい、人々が集中して居住する空間を囲む城壁を指す。中国では外敵防御のため、堅固な羅城が築かれたが、外敵のない日本の都城では、都の威容を示す施設として京の南面にのみ造られたと考えられている。

- 1) 中国（唐）・韓国（高句麗・新羅・百済）
- 2) 平城京、平安京

II. 『延喜式』からみる平安京の九条大路と羅城

- 1) 『延喜式』左右京職京程条
「南北一千七百五十三丈。(中略)南極大路十二丈。羅城外二丈、<垣基半三尺、犬行七尺、溝広一丈>路広十丈。」
- 2) 問題の所在
 - ①九条大路の道路幅は、10 丈？12 丈？⇒平安京の南北長と関わる問題
 - ②羅城外二丈の解釈。九条大路の道路幅は 10 丈で、これに羅城外 2 丈を加えて 12 丈か？
 - ③羅城の高さは、『延喜式』木工寮築垣から、1 丈 3 尺（約 3.9m）と推定され、京の南面だけ羅城が造られ、京の東西北辺は土塁が築造されたとする説が有力であった。しかし、発掘調査によって実態が確認されたことはなく、今回の発掘調査で初めて確認できた。

III. 2018～2019 年度の発掘調査成果

- 1) 概要
- 2) 平安時代の遺構
 - ①九条大路南北両側溝
 - ・北側溝：3 区の南西部で古段階の溝 412 と新段階の溝 170 の 2 条を検出。拡張区⑥では、各々の溝の西延長部と考えられる溝 535（古段階）と溝 530（新段階）を検出。古段階の北側溝は、10 世紀代の遺物を含む土の下層で検出。
 - ・南側溝：拡張区①で溝 360 を検出。拡張区②で西延長部と考えられる溝 529 を検出。⇒南北両側溝（溝 412・360）の心々距離は 30m＝約 10 丈。
 - ②九条大路路面（礫敷 567）：九条大路南北両側溝の間で検出。残存幅は約 22m。直径 1～2 の礫を固く敷き詰めている。
 - ③犬行（礫敷 414）：拡張区①の中央部、溝 360 と高まり 365 の間で検出。南北幅約 1.5m。
 - ④羅城基底部（高まり 365）：拡張区①の中央で検出。残存高 6～18 cm、南北幅約 3m（1 丈）。砂礫からなる基盤層を掘り込み、細砂と砂礫混じりの土を盛り、突き固めて構築。検出位置や構築土の状況から羅城の基底部と考えられる。

3) 調査成果

①四至の京極大路を確定。

②九条大路の規模を確定。※__は、検出遺構

九条大路南北両側溝（溝 412・360）の心々距離 30m（10 丈）

+ 羅城内側の犬行（幅 1.5m・5 尺） + 北築地の基底幅 6 尺の半分 3 尺 + 犬行幅 5 尺

+ 羅城基底幅 6 尺の半分 3 尺 ⇒九条大路の道路幅は 12 丈。

造営当初、路面幅約 9 丈 6 尺（約 28.8m）の『延喜式』の規定どおりに施工されたことが判明。

③九条大路の施工範囲と時期

・北側溝：拡張区⑥の溝 535（古段階）・530（新段階）

南側溝：拡張区②の溝 529

⇒西寺からさらに西靱負小路の西側、右京九条二坊五町の東一行までは施工。

・補修・再施工の痕跡はない。10 世紀代の遺物を含む土の下層で検出

⇒平安時代前期から施工された後、10 世紀以降は道路として機能していなかった。

④羅城基底部と築造範囲：羅城基底部の痕跡は、拡張区⑤の羅城推定ライン上に土質の異なる範囲が一定の幅をもって東西方向に認められ、右京城では羅城が西大宮大路の西側まで築造されていたことが確定できた。

⑤「羅城外二丈」の問題：羅城に伴う外側の犬行（2.1m：7 尺）と溝（3m：1 丈）に関しては、全く検出されていない。これまでの発掘調査によって確認されてきた条坊区画と『延喜式』京程条の整合性からすると、『延喜式』の記載通りに羅城の外溝が施工された可能性は高い。ただ、その範囲は、平安京の正面を飾る羅城門の周囲、あるいは東寺・西寺の前面に限られていた可能性がある。

おわりに

【主要参考文献】

新宮学 2013「北京外城の出現」『東アジア都城比較の試み』国際公開研究会発表論文報告集

網伸也 2011『平安京造営と古代律令国家』塙書房

井上和人 1998「平城京羅城門再考-平城京の羅城門・羅城と京南辺条条里-」『条里制古代都市研究』14 号 条里制古代都市研究会（のち 2004 年『古代都城制条里制の実証的研究』学生社に所収）

井上満郎 1978『研究史平安京』吉川弘文館

李成制 2015「高句麗の対倭外交開始とその背景」『高句麗と倭』古代環東海交流史 1 明石書店

李炳鎬 2019「百済・新羅からみた倭国の都城」『古代の都』岩波書店

小澤毅 2003『日本古代宮都構造の研究』青木書店

岸俊男 1993「日本の古代宮都」岩波書店

滝川政次郎 1967「羅城・羅城門を中心とした我が国都城制の研究」『法制史論叢』第二冊 角川書店

鶴見泰寿 2014「平城京羅城門周辺の発掘調査」『条里制・古代都市研究』第 29 号 条里制・古代都市研究会

奈良文化財研究所 2003『東アジアの古代都城』研究論集 XIV 奈良文化財研究所学報第 66 冊

福山敏男・杉山信三・浪貝毅 1971「羅城門跡発掘調査報告」『京都市埋蔵文化財年次報告 1971』京都市文化観光局文化財保護課

村井康彦 1970「平安京の形成」『京都の歴史 第一巻 平安の新京』学芸書林

山川均・佐藤亜聖 2008「平城京・下三橋遺跡の調査成果とその意義」『日本考古学』第 25 号 日本考古学協会

山田邦和 1994「平安京の概要」『平安京提要』角川書店

山中章 2011「日本古代都城の羅城をめぐる諸問題」『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会

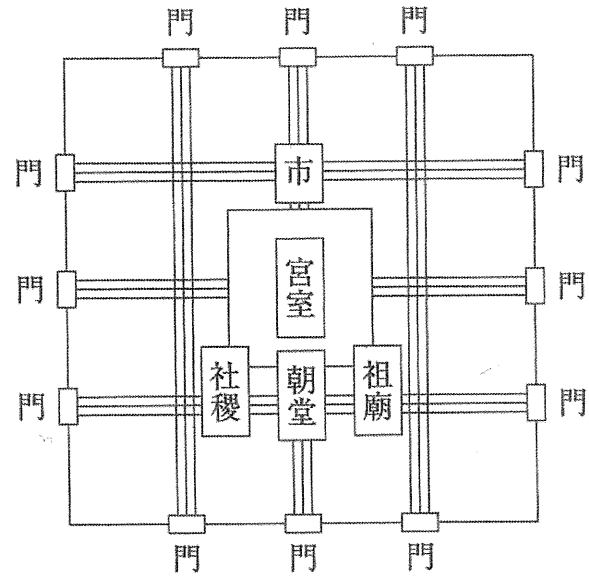


図1 周礼型都城概念図(岸俊男1993)

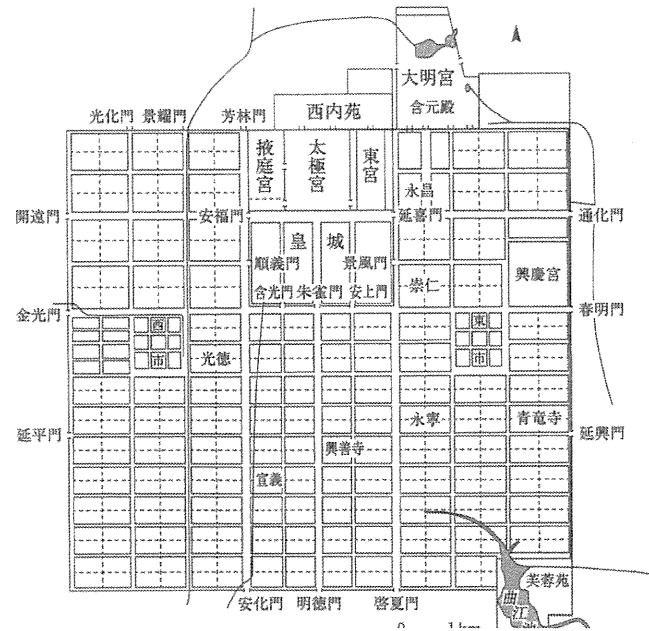


図2 唐長安城概要図(岸俊男1993)

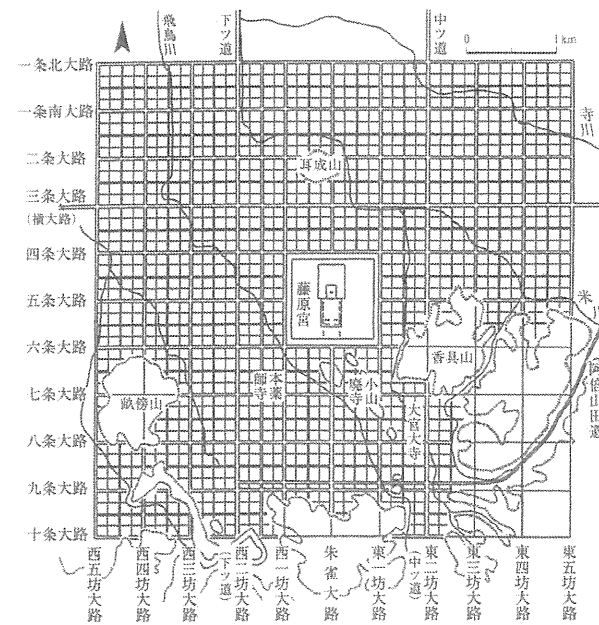


図7 藤原京復元図(小澤毅2003)

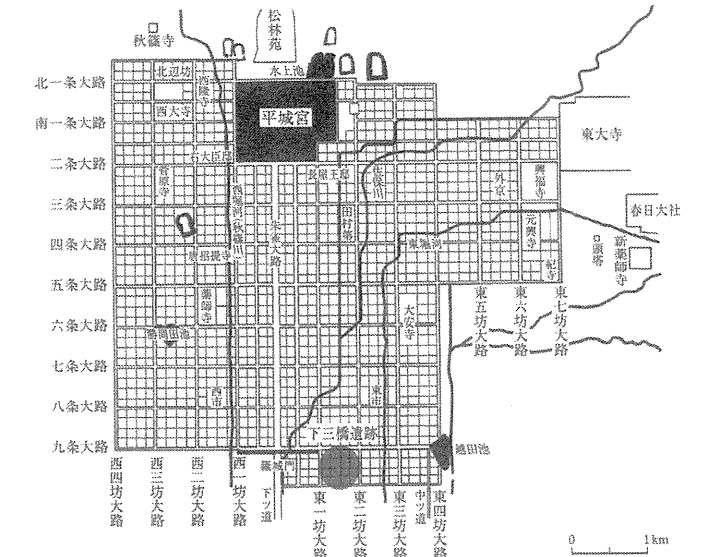


図8 平城京十条(旧称:下三橋遺跡)の発掘調査位置図(大和郡山市教委・元興寺文化財研究所2014より一部改変)

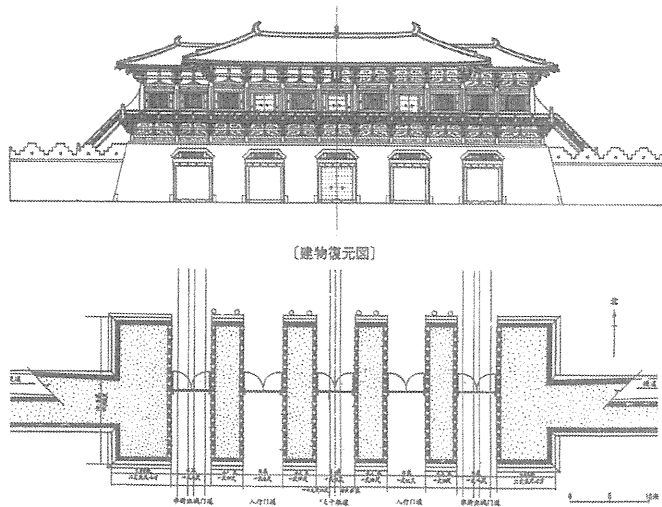


図3 唐長安城明德門(楊鴻鄺1996)

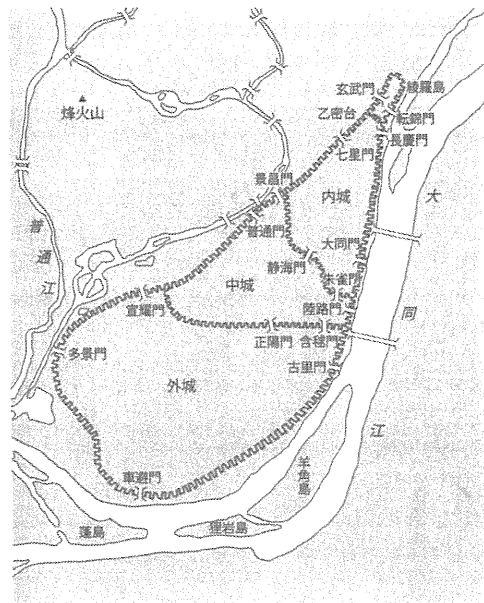


図4 高句麗後期の長安城(李成制2015)

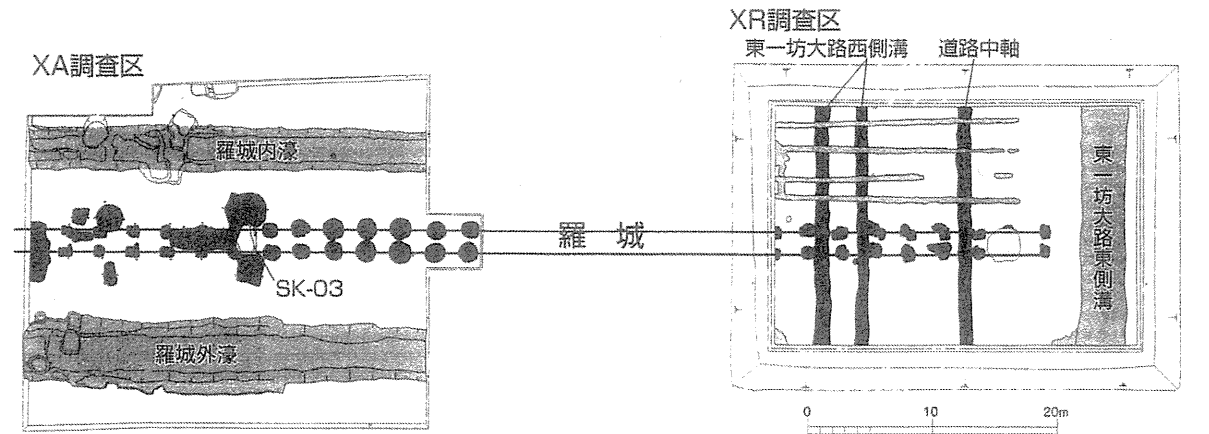


図9 平城京十条(旧称:下三橋遺跡)の羅城と内外濠(山川均・佐藤亜聖2008)

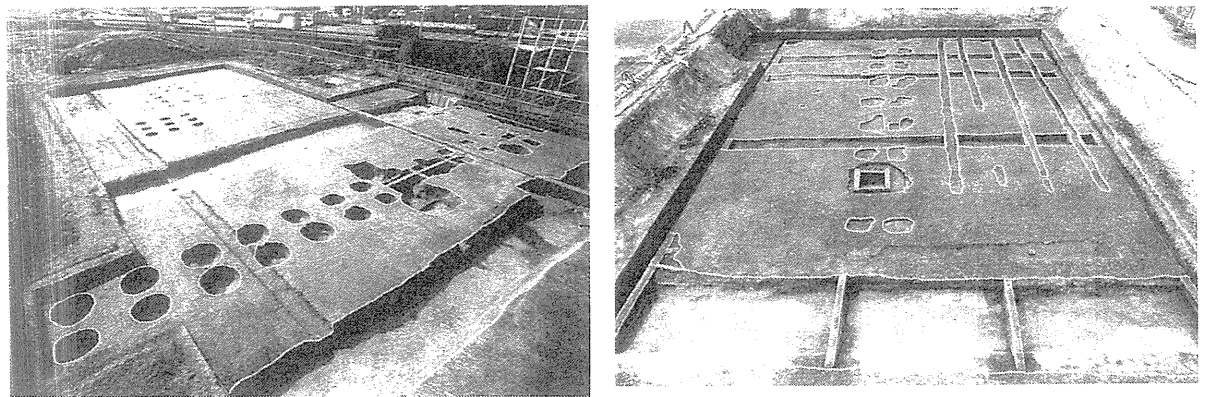


図5 百済泗泚都城の主要遺跡と羅城(李炳鎬2019)

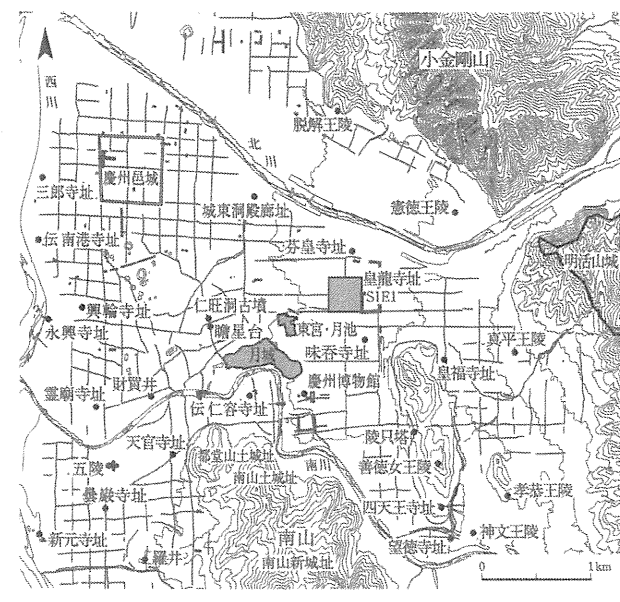


図6 慶州の王京区画と模式図(李炳鎬2019)

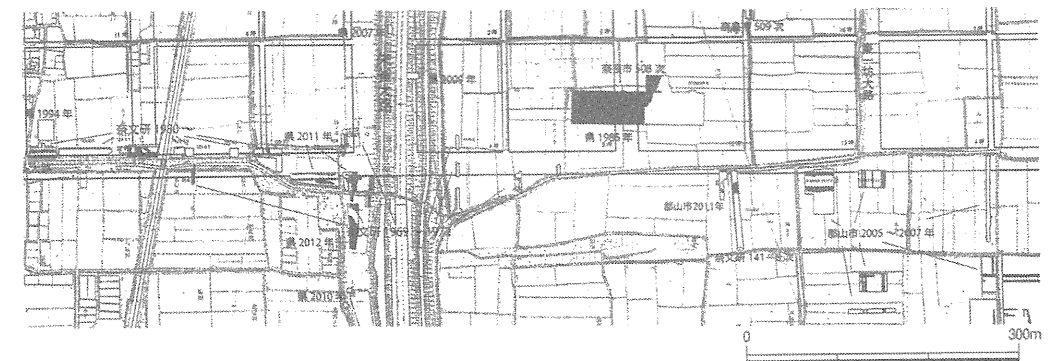


図10 平城京の羅城門と九条大路周辺の調査区(鶴見泰寿2013)

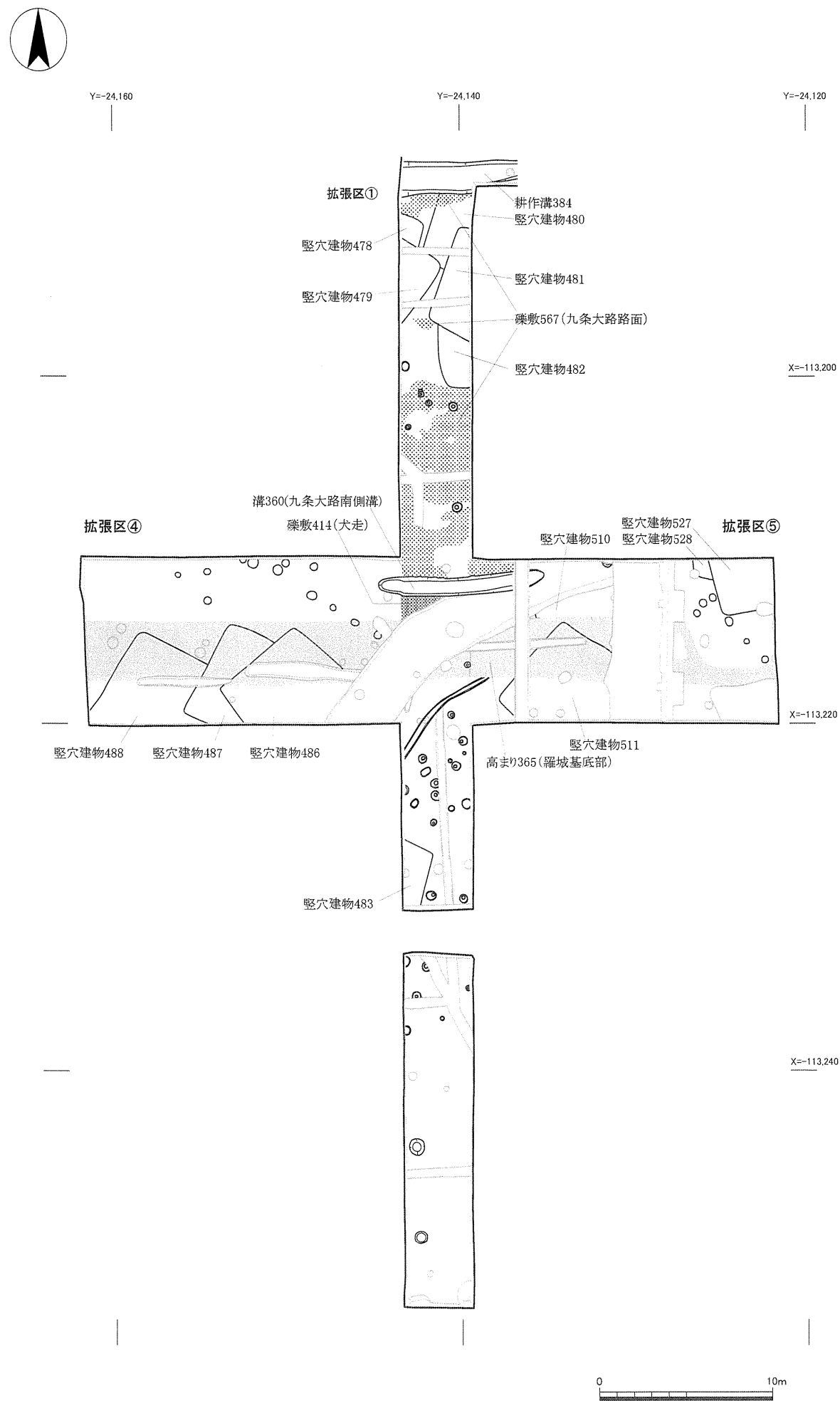
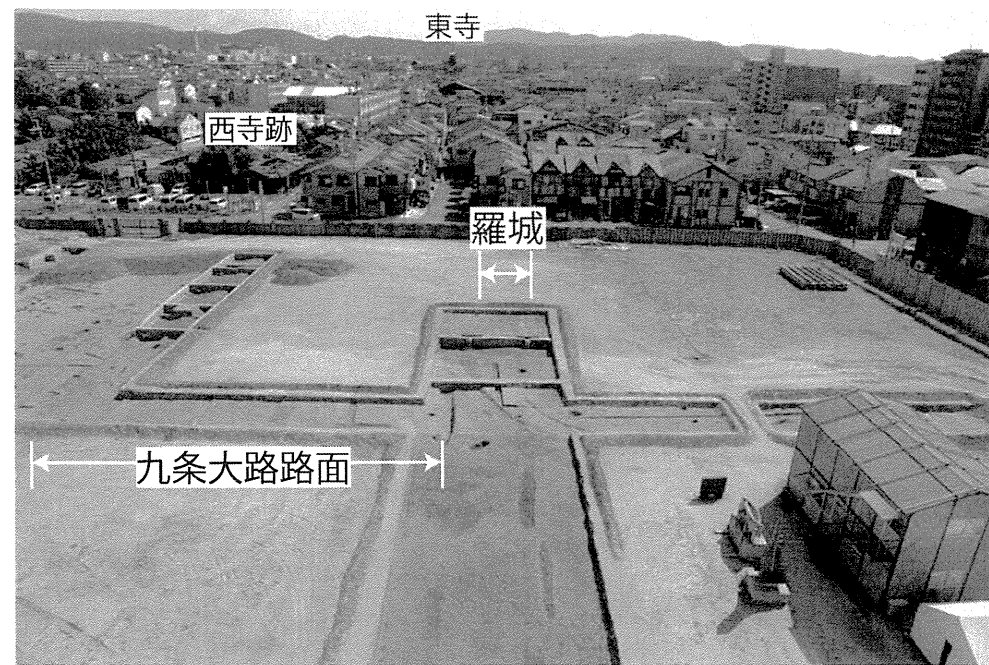
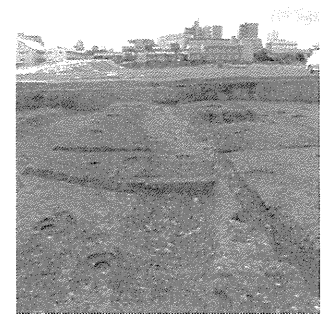


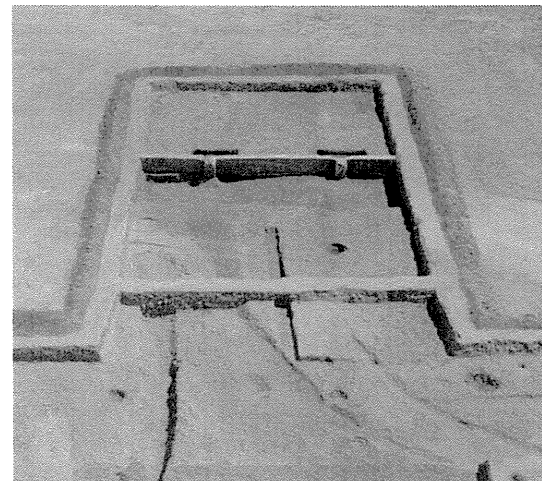
図15 拡張区①④⑤平面図（1：300）＊図は未完。複製不可。



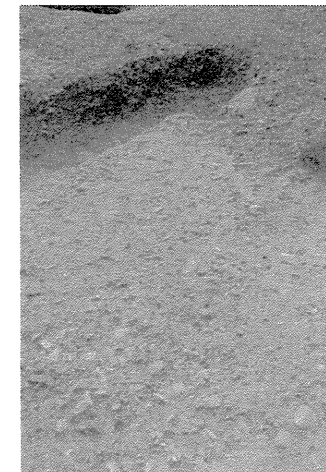
①拡張区①④⑤の全景（西から）



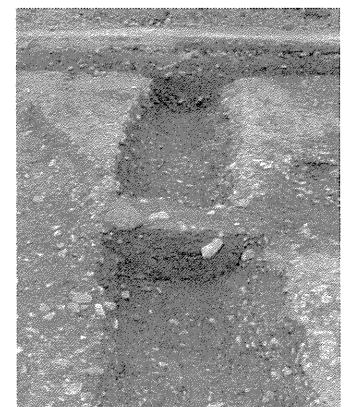
⑤九条大路北側溝（旧段階・東から）



②九条大路南側溝・犬走・羅城基部（西から）



③九条大路路面礎敷（北東から）



④九条大路南側溝（東から）

図 16 九条大路北側溝、路面、南側溝、羅城基部の写真

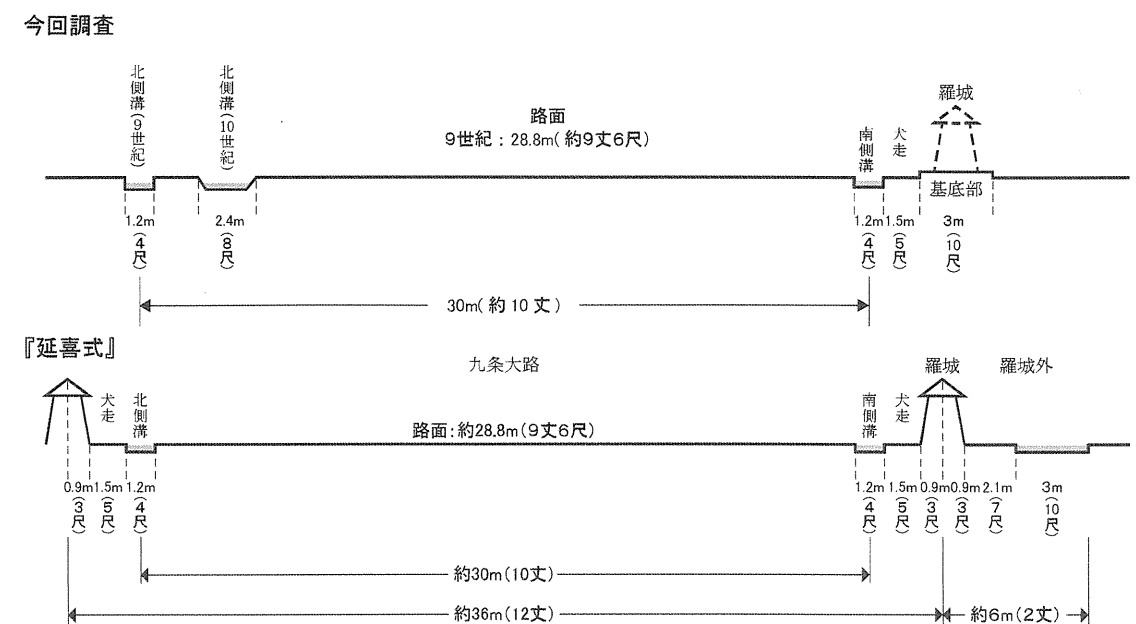


図17 九条大路断面模式図（1：300）

※1尺≒30cm、1丈(10尺)≒3m